

第77期 年次報告書

(2023年10月1日～2024年9月30日まで)

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS



浜松ホトニクス株式会社
証券コード：6965

トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。ここに、第77期（2023年10月1日から2024年9月30日）における事業の概況につきまして、ご報告をさせていただきます。

■事業環境、業績

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、雇用・所得環境の改善や各種経済政策の効果もあり、緩やかに回復の動きがみられるものの、欧米における高金利・通貨高の継続や中国経済の先行き懸念など依然として先行きが不透明な状況で推移しました。

当社グループの足元の状況といたしましては、部材不足を背景とした急激な需要増加からの反動による在庫調整の動きや、一部の市場における競合メーカーの台頭などの厳しい事業環境となりました。

浜松ホトニクスグループの経営理念

Mission –わたしたちの使命・約束–

Photon is our business

- ・ 科学技術の進歩とより豊かな社会・環境の実現に寄与
- ・ 人類の健康と幸福に貢献

Vision –わたしたちの志–

- ・ 光の未知未踏領域を追求
- ・ 光技術を用いた新しい産業の創造

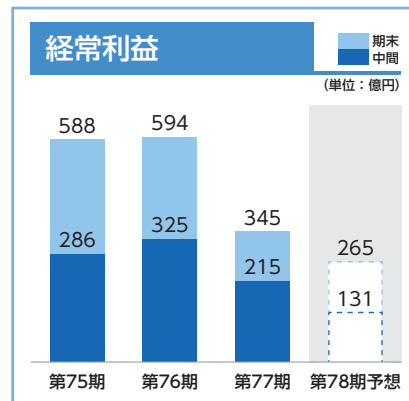
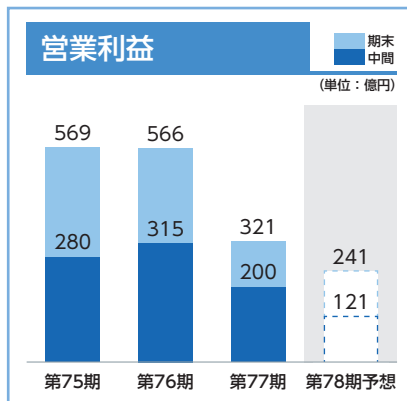
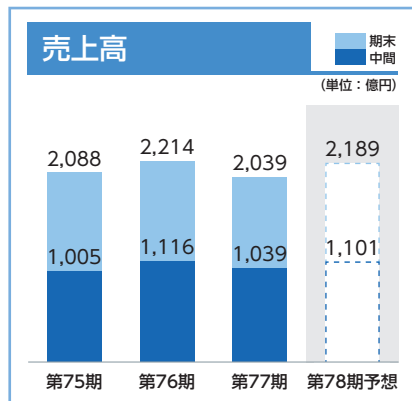
Values –わたしたちの価値観–

- ・ 挑戦～できないと言わずにやってみる！～

このような中、当社グループは、将来の成長に備えた設備投資を進める一方で、長年にわたり培ってきた光技術をいかした研究開発に加え、さらにレーザー技術を強化するため、ファイバレーザで特色のあるエヌケイティ・ホトニクス・エイ・エス（デンマーク）を買収するなど、売上、利益の確保に努力してまいりましたが、遺憾ながら前期比減収減益となりました。

上記の通り足元は厳しい経営環境にあります。多くの市場で回復の兆しがみえており、主要な市場である半導体製造・検査装置や医用・バイオ機器などにおいて当社製品の重要性は高まっています。来期以降の業績の回復及び、その先のさらなる成長に向けて取り組みを加速させていただきます。

連結財務ハイライト



■事業連携によるカスタムモジュールの提供

近年は間接部署、技術連携など様々な業務において事業連携を強化してきました。

お客様ごとに最適化する、光センサ、光学系、信号処理回路、ソフトウェアなど各事業のユニークな光関連技術を連携することで生み出されるカスタムモジュールは、装置の心臓部としてそのまま実装され、高い付加価値を創出すると高い評価をいただいています。従来のデバイスに加え、事業連携による高付加価値なカスタムモジュールの提供により、さらなるお客様のニーズに対応する製品を提供していきます。



■エヌケイティ・ホトニクス・エイ・エスの買収

自社での研究開発に加えさらにレーザー技術を強化するため、ファイバレーザで特色のあるエヌケイティ・ホトニクス・エイ・エスを買収し、受光・発光の両面で世界トップクラスの制御技術を保有する企業となりました。今後も顧客と市場との密接なコミュニケーションを通じ、光に関するすべての要素技術をいかした受発光一体型の高付加価値

価値モジュールなど、様々なニーズを満たすトータルソリューションを提供していきます。

また、今まで当社が参入していなかった市場への展開を進めていきます。今後市場拡大が期待されている量子分野において、量子コンピューティング、量子暗号通信、量子センシングに必要とされるレーザ光源、光検出器、光操作デバイスをすべて保有する企業として市場をリードしていきます。

医用分野においては、従来主力であった検査機器市場から、高品質・高安定のレーザ供給により眼科用レーザ治療器市場に市場を拡大させます。

■基礎研究から新規市場の創出への取り組みを強化

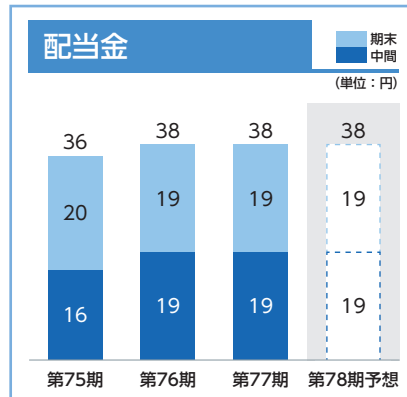
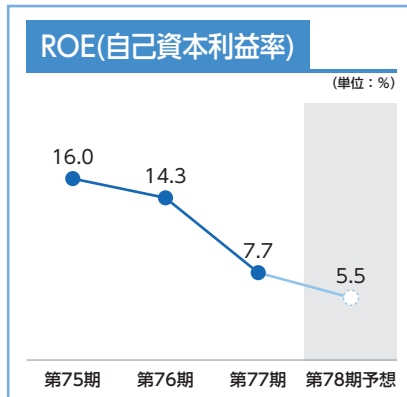
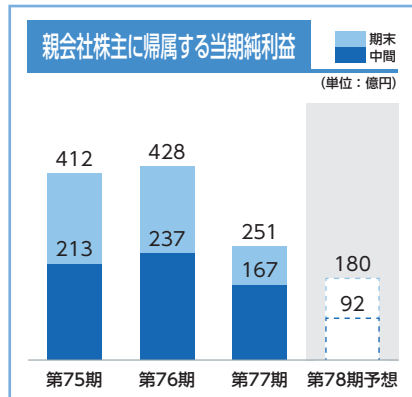
当社は創業以来、光の可能性を追求し、中央研究所を中心として基礎研究にも注力してきました。中央研究所は、光の未知未踏領域に挑む基礎研究を強化・推進させるとともに、事業部との連携による新たな市場展開を意識した研究開発も展開していきます。そのため、研究内容を「将来を見据えた基盤研究の推進・シーズ創出」、「社会課題解決のための基礎研究」、「事業部と連携した研究成果の実用化推進」の3つの軸に区分けしました。「事業部と連携した研究成果の実用化推進」につきましては、長年にわたる中央研究所の研究成果と事業部が将来必要とする技術のマッチングを行い、4つのテーマ（①未踏波長領域デバイス技術、②メタサーフェス技術、③高付加価値データ駆動型レーザ加工技術、④核融合用レーザダイオードモジュール技術）を選定することで、新たな市場の創出と実用化に向けて研究を加速させていただきます。

株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

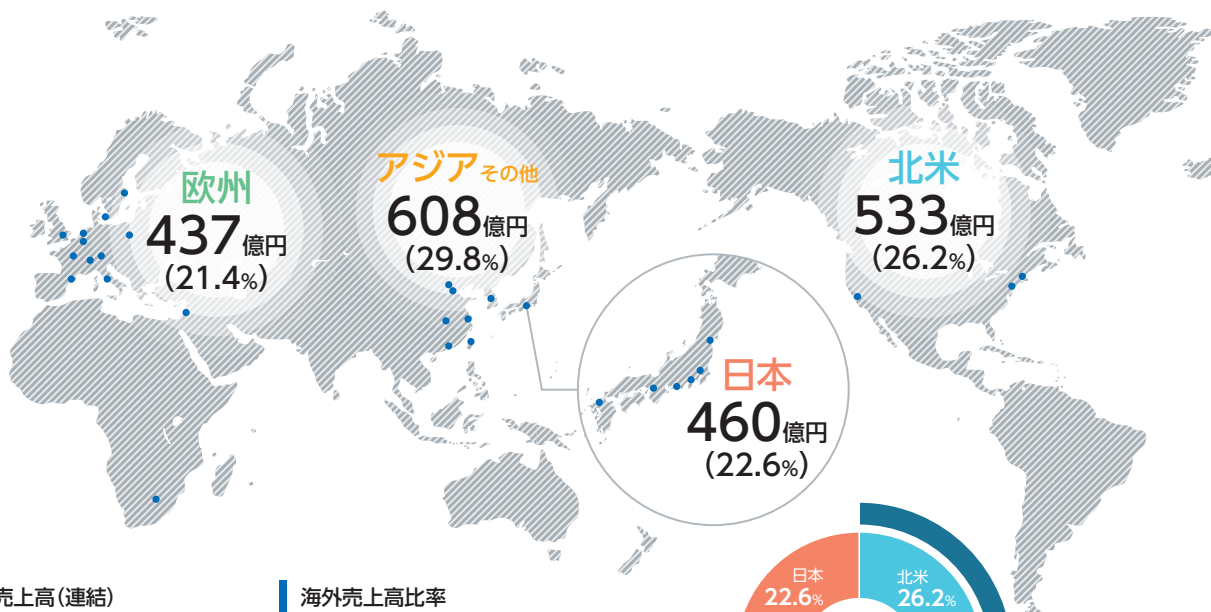
2024年12月

代表取締役社長 丸野 正

※2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。第77期以前についても株式分割実施後の基準に換算した数値を記載しています。



地域別でみる浜松ホトニクス



売上高(連結)

2,039億円

海外売上高比率

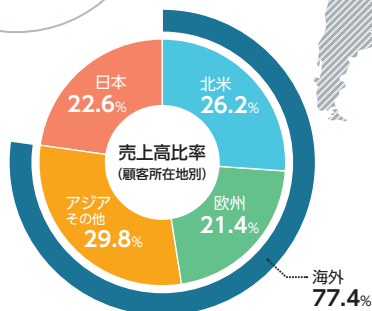
77.4%

全世界拠点数

41拠点

連結従業員数

6,395名



全世界拠点・地域従業員数

欧州・中東・アフリカ

14拠点

692名

[営業拠点] ドイツ・フランス・スウェーデン・イタリア・イギリス・デンマーク など
[生産拠点] デンマーク など

アジア

7拠点

724名

[営業拠点] 中国(北京)・台湾・韓国 など
[生産拠点] 中国(廊坊)

アメリカ

3拠点

390名

[営業拠点] ニュージャージー など
[生産拠点] マサチューセッツ

日本

17拠点

4,589名

[本社事務所] 本社事務所(浜松市)
[営業拠点] 東京営業所/仙台営業所/中部営業所(浜松市)/大阪営業所/西日本営業所(福岡市)
[生産拠点] 本社工場/新貝工場/天王製作所/常光製作所/都田製作所(いずれも浜松市)/豊岡製作所/三家工場(いずれも磐田市)
[研究・開発拠点] 中央研究所/産業開発研究所(いずれも浜松市)/筑波研究所/横浜IT開発室

業界別の事業概況

売上高
2,039億円



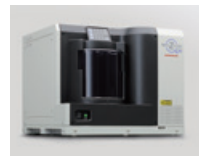
医用・
バイオ
機器

31.8%
(649億円)

売上高 **649**億円 前期比 **16.9%**減



- 病理デジタルスライドスキャナの売上げが、医療機器承認の取得により、国内での需要の高まりを受け増加
- X線CT向けのシリコンフォトダイオードの売上げが前年までの部材不足を背景とした受注増加の反動により減少
- 歯科用診断装置向けのフラットパネルセンサの売上げが、海外における競合メーカーの台頭による価格競争の影響を受け減少



▲病理デジタルスライドスキャナ



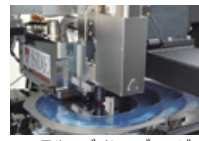
産業機器

32.5%
(663億円)

売上高 **663**億円 前期比 **10.9%**減



- 生成AI(人工知能)向けの好調な設備投資に伴い、シリコンウエハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジンの売上げが増加
- 非破壊検査装置向けのマイクロフォーカスX線源の売上げが、EV(電気自動車)市場の停滞に伴い、車載用バッテリー検査や基板検査用などで大幅に減少
- 半導体製造検査装置向けの光電子増倍管の売上げが減少



▲ステルスダイシングエンジン



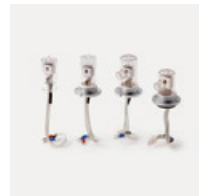
分析機器

10.0%
(204億円)

売上高 **204**億円 前期比 **9.3%**減



- 液体クロマトグラフなどの分析装置向け重水素ランプの売上げが、医薬品の成分分析等の需要停滞により減少



▲重水素ランプ



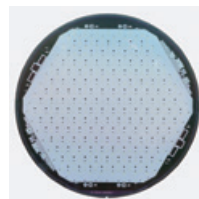
学術研究

8.0%
(164億円)

売上高 **164**億円 前期比 **13.1%**増



- 高エネルギー物理学実験向けのフォトダイオードアレイなどの光半導体センサや光電子増倍管の売上げが、日本や欧州におけるプロジェクトからの継続的な受注により増加



▲高エネルギー物理学実験向けのフォトダイオードアレイ

その他
17.7%
(358億円)

ここにも浜松ホトニクス

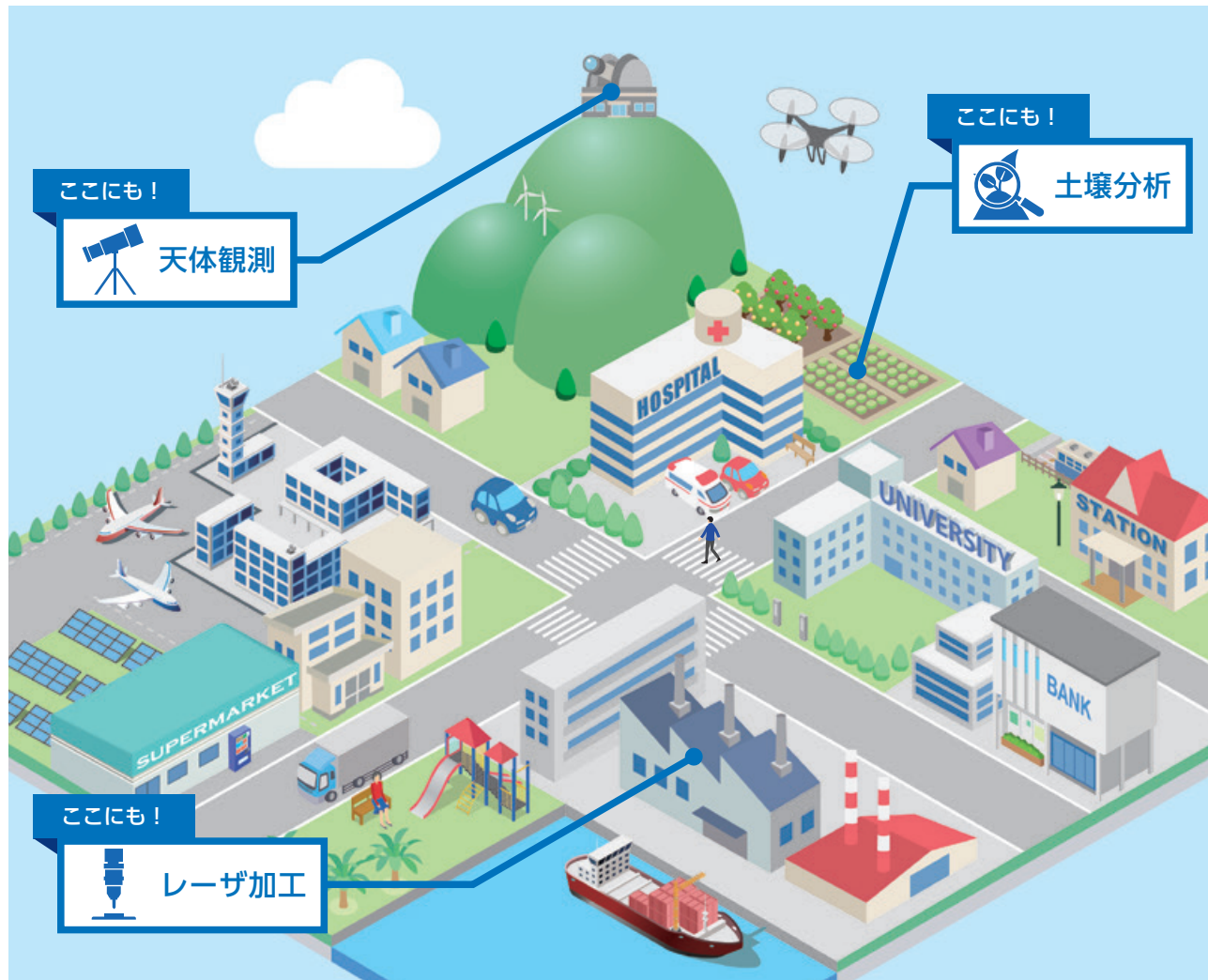
当社の製品は幅広い分野で応用されており、医用・バイオ機器、産業機器、分析機器、学術研究など様々な場面で社会を支えています。

ここではその一部をご紹介します。

業界別で見る浜松ホトニクス

その他当社の製品や技術の応用例を動画で分かりやすくご紹介しています。

https://www.hamamatsu.com/sp/hq/virtual_showroom/ir/ja/vr/index.html





分析

土壌の状態を光で測る

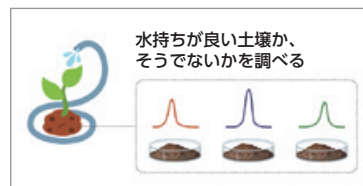
農業において作物を正常に育成させるためには、土壌を作物に適した状態に調整・管理する必要があります。この土壌の分析に当社の**テラヘルツ波分光分析装置**が使用されており、土壌の含水率によって異なる光の吸収率を測ることで、土壌の保水性を正確に把握でき、適切な土壌管理と作物の安定生産に貢献しています。

光の波長

テラヘルツ波



▲テラヘルツ波分光分析装置



▲光の吸収率から土壌の保水性を分析



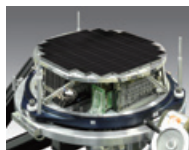
学術

宇宙の謎に迫る

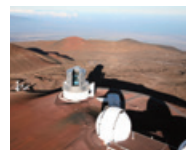
国際的な天文台では、天体や天文現象など地球外で起こる自然現象を高精度に観測するため大型の望遠鏡が使用されており、その基幹部品であるカメラに当社の**CCDイメージセンサ**が搭載されています。当社のセンサを用いることで全体で8億7,000万画素の望遠鏡を実現し、従来のカメラでは観測が不可能であった天体や天文現象から届く微弱な光を一度に広い視野で高解像度に観測できます。

光の波長

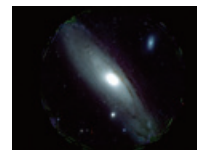
赤外線



▲CCDイメージセンサが搭載された大型望遠鏡のカメラ



▲当社のセンサを搭載したハワイ島のすばる望遠鏡



▲すばる望遠鏡がとらえたアンドロメダ銀河

※写真は3点とも国立天文台提供



産業

レーザーを自由自在に操る

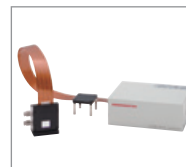
レーザー加工は、自動車やスマートフォン、家電などの幅広い製造プロセスで主に金属材料の接着や切断などに利用されています。高精度なレーザー加工を実現するためには、レーザーを正確に制御する必要があり、その基幹部品として当社の**空間光位相変調器**が使用されており、加工の安定性や精度の向上に役立っています。

光の波長

可視光



▲レーザー加工の様子



▲空間光位相変調器



▲レーザー光を自由自在に分岐し、多彩な加工を実現

エヌケイティ・ホトニクス・エイ・エスを買収 新たな未知未踏領域に挑戦

2024年5月、当社グループはエヌケイティ・ホトニクス・エイ・エスを買収しました。同社は、世界最先端のファイバレーザとレーザ光を増幅するファイバ技術（フォトリック結晶ファイバ）を世界で唯一保有するデンマークの会社です。フォトリック結晶ファイバ技術は、髪の毛の1万分の1の細さに引き伸ばした中空のガラス管を1,000本束ね、レーザ光を高精度に増幅させる技術であり、これを用いた超高輝度のレーザ光源は産業やライフサイエンスをはじめとした様々な分野に用いられています。

当社グループは、これまで光電子増倍管や光半導体センサ、科学計測用カメラといった受光デバイスでは世界トップレベルの技術と市場シェアを誇っている一方で、発光デバイスについてはランプやLED等が中心であり、さらなる成長の柱として市場競争力のあるレーザ光源を求めています。この度、同社のレーザ光源が加わったことにより、当社グループは受光・発光に関するすべての要素技術を獲得し、高精度で特色のある製品ラインナップを揃えることとなりました。

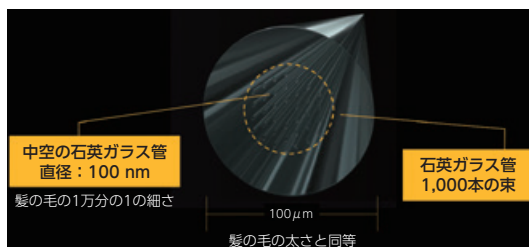
特に人工知能（AI）の発展により今後さらなる成長が期待される半導体分野では、製造から検査までの一連の工程に必要とされる様々な装置において受光・発光の両面から、より市場ニーズに沿った提案をするシナジー効果が発揮できます。その他、近年注目を集めている量子分野においても主要な光学デバイスを網羅的に提供可能となります。

今後も、グループ一体となり、高付加価値製品の提供を続け、光のリーディングカンパニーとして未知未踏領域に挑戦し続けることで新しい産業の創造、科学技術の進歩とより豊かな社会・環境の実現、人類の健康と幸福に貢献していきます。

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS



NKT Photonics



▲フォトリック結晶ファイバの構造



▲受光・発光に関するすべての要素技術を獲得

ビーエイー・システムズ・イメージング・ソリューションズ・インクを買収 光半導体事業の強化と高付加価値化を加速

2024年11月、当社グループは、世界トップレベルの超低ノイズCMOSイメージセンサ設計技術を有しているビーエイー・システムズ・イメージング・ソリューションズ・インクを買収しました。

同社は、高感度、高速読み出し、低ノイズを同時に実現した、科学計測や歯科／医療機器向けの2次元CMOSイメージセンサを主力製品にもつ半導体メーカーです。今回の買収を通じて獲得した同社のセンサ設計技術により、科学計測用イメージング市場におけるビジネスをさらに強化します。加えて、歯科用診断装置市場において、当社は欧州地域と日本を含めたアジア地域が主力である一方で、同社は米国地域で高いシェアを有しているため、グループ全体でのシェア拡大に繋がることが期待されます。さらに、当社の所有するMEMS技術等と同社の設計技術を組み合わせることで、シナジーの創出による新たな高付加価値製品を生み出していきます。

都田製作所の新棟が完成

都田製作所（静岡県浜松市浜名区新都田）の新棟が完成し、11月より稼働を開始しました。新棟では、事業所内に点在している半導体レーザの後工程を集約し、製造エリアを拡張することで需要の拡大に対応します。加えて、製造工程間の作業動線を最適化するとともに、最新の製造装置や検査装置を導入し、工程の自動化や効率化を促進することで生産性向上を図ります。また、災害に強い構造にするとともに、断熱構造や太陽光発電設備、高効率機器などの環境対策を積極的に取り入れた建物となっています。

当社は、受光・発光の両素子を前工程から後工程まで一貫して生産している世界でも数少ない企業であり、用途に応じた最適な素子を開発、製造し受発光素子をセットで提案できるという強みがあります。今後もこの強みをいかし、半導体レーザの売上げ拡大を目指します。



▲都田製作所新棟外観

サステナビリティ

当社は「経営理念」や「企業倫理及びコンプライアンスに関する基本的な考え方」「サステナビリティ基本方針」をベースにグループ全体でのサステナビリティ活動を推進しており、具体的な8つの取り組むべき重要事項と目標（マテリアリティ）を特定し、社会・環境と調和・連携・協創できる世界を、光技術で創り出すことを目指しています。今後も、光をいかし社会と環境への価値を創造する「社会・環境価値創造型企業」として、未来のあるべき姿に向けて、挑戦を続けます。

以下に当社のサステナビリティに対する取り組みをご紹介します。



サステナビリティ関連情報

<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company/sustainability.html>



多様性の実現に向けた取り組み

当社は、「グループの成長と社会への貢献を支える人づくり」をマテリアリティの一つに掲げ、多様性に富んだ職場づくりを積極的に推進しています。ここでは、その取り組みの一部をご紹介します。

<ダイバーシティ推進のための健康課題フェスの実施>

女性が様々な健康課題を抱えながらも職場においてより生き活きと活躍できる環境を作っていくことを目指し、男女ともに女性の健康課題への理解を深める機会として健康課題フェスを実施しました。そこでは、婦人科医による生理との付き合い方を学ぶ教育動画を配信しました。また、地元大学の学生が主催する婦人科検診啓発プロジェクトにも参加し、各事業所にて啓もう活動を行いました。

<祝日社内学童保育のトライアル実施>

子どもを保育園等に預けることが困難な祝日の当社勤務日も、従業員が育児と会社での働きがいを両立できる環境を整備することを目的として、この度社内において保育環境を整え、従業員の子どもを預かる取り組みを試験的に実施しました。

当社は、今後もより良い働き方を目指して各種施策を企画・実行していきます。



▲社内学童では、様々な独自プログラムを実施。偏光板を用いて光の仕組みを体験する様子（左）と特例子会社である（株）浜松ホトアグリでの農場体験の様子（右）

海外子会社の環境への取り組み

当社は、マテリアリティの一つである「地球と共生可能な事業活動の推進」に基づき、環境負荷低減に配慮した製品や環境改善に貢献する製品の開発を行っているほか、国内外の子会社と連携し、グループ全体の環境負荷データの把握や施策の共有等を実施しています。ここでは、海外子会社における環境への取り組みの一部をご紹介します。

<環境に優しい移動>

アメリカの子会社では、通勤手段を自転車・徒歩・自動車の相乗りにすることでインセンティブが受け取れるプログラムを導入しており、通勤時の二酸化炭素の削減に取り組んでいます。また、アメリカ、ドイツ、フランスの子会社では、電気自動車の充電ステーションを敷地内に設置し、環境負荷の少ない通勤手段の選択を後押ししています。

<食品廃棄物の削減>

イギリスの子会社では、食品廃棄物の削減を目的とした「Love Food, Hate Waste キャンペーン」に参加しており、その活動の一環として微生物を利用した環境にやさしい方法で廃棄物が処理されています。これにより、埋め立て処分となる生ごみの量を大幅に減らしています。

今後もグループ一体となって環境への取り組みを推進し、社会から健全で信頼される企業としての成長・発展を目指します。

サステナビリティ推進に向けたグループ体制の強化

当社は、グループ全体の企業価値のさらなる向上を目的として、連結対象子会社の責任者が一堂に会するミーティングを毎年開催しており、その一つのセクションとして非財務分野に特化した会議を開催しています。会議では、当社経営層より非財務活動の理念や方針、重要性を今一度共有することで、トップダウンによる意識付けを図っています。また、当社のE（環境）・S（社会）・G（ガバナンス）の3つの担当部署より、各テーマの活動内容の共有や今後に向けた目標・計画を共有するとともに、議論を交わしています。

今後も、定期的な会議の開催を通じて、グループでの連携をより強化していきます。



▲丸野社長によるプレゼンテーションの様子

株式事項 / 株価の推移

2024年9月30日現在

株式事項

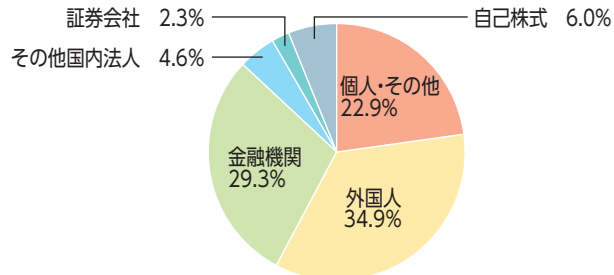
■発行済株式総数 165,083,770株

■株主数 48,967名

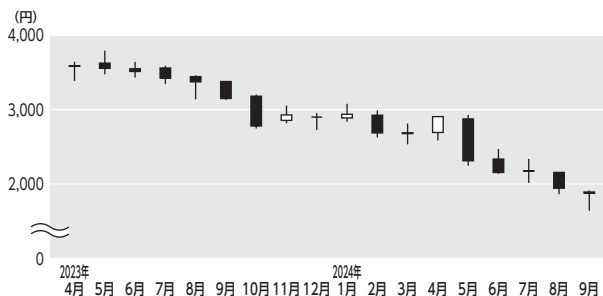
大株主	株式数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	24,916,500株
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	10,485,500株
浜松ホトニクス従業員持株会	4,224,214株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	3,919,362株
ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	3,869,900株
野村信託銀行株式会社（投信口）	2,943,500株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	2,870,733株
ジェーピー モルガン チェース バンク 385864	2,735,000株
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	2,709,787株
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781	1,813,316株

(注) 上記のほか、自己株式9,945,961株があります。

所有者別株式分布状況



株価の推移



※2024年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。そのため、当該分割が行われたと仮定して株価を算出しております。

会社情報

会社情報、事業内容、国内及び海外事業などを掲載しています。



<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company.html>

個人投資家の皆様へ

投資家向けの会社情報や資料、多く寄せられるご質問とその回答等を掲載しています。



<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/investor-relations/shareholder-information.html>

株主アンケート結果のご報告

第77期中間報告書で実施したアンケートの結果の一部を掲載しています。



https://www.hamamatsu.com/content/dam/hamamatsu-photonics/sites/documents/01_HQ/ir/financial-information/questionnaire/h_r_77yu_j_questionnaire.pdf

